



「だからもの言葉」

■あったかい言葉

つい先日、蒲郡商工会議所で行われたロボット講演会に、「小惑星探査機はやぶさからはやぶさ2へ」という出展をさせていただいたときのことです。

展示解説をしている私に、「私たち、生命の海科学館が初めてだったんですよ」と声をかけてくれたのは、落ち着いた感じの若いご夫婦。旦那様は19億年前のストロマトライトの化石が好きで、奥様はカンブリア紀の古生物がお気に入りとか。これはうれしい！うれしいです！会場は寒かったのに、心の中はポツと温かくなった気がしました。

■うれしい言葉

科学館でも、そういったうれしい報告をいただくことがあります。

ます。

「小学生のころ、シアターのゲームが大好きで、何回も来ていました」と言ってくれた女子大生。今回はレポートのための調べものに来たそうです。また、最近見なくなったなあと思っていた小学生の男の子は、保護者の方から「高校に上がって、あいつ、地学部入ったんですよ」と報告をいただきました。以前、大人向けの講座にお二人で参加されていた若いご夫婦は最近、子どもを連れてワークショップに来てくれます。皆さまからいただく言葉一つひとつが、科学館で働くスタッフにとっては宝物です。

■育てる言葉

生命の海科学館は、今年13歳になります。

2年前には実験工作室がオープンし、新しくワークショップが始まりました。そしてこの春、この記事がお手元に届くころには、1階に参加体験型の展示がお目見えします。

ご来館されるお客さまとともに、科学館も育っています。育てるのは、お客さまの声、市民の声です。皆さまのお越しを、皆さまの声を、科学館でお待ちしています。



今年、形原町が蒲郡市に合併して50年という節目の年です。

宝飯郡は古くから3つの地域に区分され、一番西寄りの地域(三谷町・蒲郡町・塩津村・形原町・西浦町)は、「西宝地区」と呼ばれていました。この5町村で昭和21年に設立された西宝商工会議所に後に大塚村も加わって、6町村が行政区域を越えて一体となり、地域の発展に寄与してきました。

将来のために西宝地区の早期合併が必要であるという考えは戦前からありましたが、具体的な運動が始められたのは昭和20年代後半になってからです。

昭和28年9月25日に愛知県を襲った13号台風によって大きな被害を受けた各自自治体は、災害復旧対策などを協力して行う一方で、町村合併促進法の施行をうけ、市

蒲郡のあゆみ 形原町合併から50年

制施行に向けて始動しました。10月22日に、蒲郡町が三谷町・塩津村・形原町・西浦町に合併問題の協議と市制施行促進の申し入れを行い、11月14日に大塚村へも合併を申し入れました。

しばらく見合わせる旨を回答した大塚村・西浦町を除く4町村で協議が進められましたが、形原町は昭和29年2月に行った住民投票での反対多数という結果を受けて協議会を離脱しました。三谷町は一時協議会に不参加状態でしたが住民投票で合併賛成となり、4月1日、紆余曲折の日々を経て、まず三谷町・蒲郡町・塩津村の3町村が合併して「蒲郡市」が生まれました。

その後、昭和30年10月1日に大塚村が分村合併(赤根・大草は御津へ)、昭和37年4月1日に形原町、翌38年4月1日に西浦町が合併し、町村合併促進法施行から約10年の歳月を経てようやく6町村の一体化が実現したのでした。



形原町合併(昭和37年) 逸見蒲郡市長(左)と壁谷形原町長